

事業名称		達成状況の評価
事業名	県営農村地域防災減災事業	A
整理番号	31-6	目標を完全に達成した。(達成割合100%)
事業の種類	ため池の廃止	
市町村名	塩尻市	
箇所名	(町村大沢地区)塩尻市片丘	
事業年度	令和元年度～令和2年度	
		配慮した項目 24 = 100%
		配慮する全項目 24
事業概要		
目的	平成26年度に耐震性の調査を行った結果、堤体に必要な耐震性を有していないことが確認されたため、本事業によりため池の廃止を行い、地域住民の安全な生活を保護する。	
事業概要	ため池の廃止 N=1箇所 盛土工 V=7,660m <sup>3</sup> 、流入水路改修 L=171m	
関連する事業計画	なし	
その他特記事項	なし	
関係法令等の規制		
自然環境保全地域等の指定状況	なし	
土地利用規制の状況	農業振興地域の整備に関する法律	都市計画法の市街化調整区域
その他	なし	
自然的環境要素	環境配慮の方針	環境配慮の実施内容 (環境配慮の方針と異なる場合はその理由)
大気環境	【大気汚染の防止】	
	・排出ガス対策型の車両や機械を使用する。	適正に実施
	・資材等の運搬ルートは、居住系地域内の走行は出来るだけ避ける。	適正に実施
	・土砂表層の散水や道路の散水、車両や機械の清掃等を行い粉じんの飛散を防止する。	適正に実施
	【騒音、振動の防止】	
	・夜間・早朝の資材運搬及び機械の稼働をできるだけ避ける。	適正に実施
	・低騒音・低振動型の建設機械を採用する。	適正に実施
水環境	【水質汚濁の防止】	
	・地盤改良を行う場合は、適切な固化材を選定し、必要最低限の添加量とする。	適正に実施
	【水循環の保全】	
	工事中は上流からの流入水は仮廻しを行い、受益地への補給水を確保する。	適正に実施
	工事は上流から下流に流下するように水路を整備し、受益地への補給水を確保する。	適正に実施
地形・地質	【改変面積の最小化】	
	・地形の改変の少ない位置・ルート・工法を選定する。	適正に実施
	・工事施工エリアの設置は、必要最小限の面積とする。	適正に実施
野生動植物	【自然環境の保全上重要な地域の改変の回避】	
	・工事影響範囲内に希少植物が確認された場合は、必要に応じて保全処置を行う。	適正に実施
	【野生動植物の生息・生育空間の保全】	
	工事着手時に在来の魚類、両生類、水生昆虫類、水草等が確認された場合、可能な限り生息適地へ移動する。	適正に実施
	特定外来魚のオオクチバス、コクチバス、ブルーギル、ウシガエル等が確認された場合、可能な限り駆除する。	適正に実施
	工事機械を搬入する際に、機体の汚れがないか確認し、外来植物が侵入しないように留意します。	適正に実施
	【地域独自の生物多様性の保全】	
	・表土を植生用客土として活用し、在来種による植栽・緑化を行う。	適正に実施
【動植物への負担の少ない形状・素材の使用】		
・自然石、自然素材又は多自然型製品等動植物への負荷の少ない素材を使用する。	適正に実施	
景観	【すぐれた景観の保全】	
	・工事箇所の整理整頓・美化に努め、仮施設や資材置き場は、目立ちにくい配置にする。	適正に実施
	【良好な景観の育成】	
	・周辺の景観に配慮した施設の配置・規模・形態・意匠・色彩・素材等を検討する。	適正に実施

廃棄物・ 建設残土	【建設廃棄物や建設残土の発生抑制】	
	・建設廃棄物や建設残土を適正に処理する。	適正に実施
	【建設廃棄物や建設残土のリサイクル】	
	・現場発生材の原位置リサイクル等、建設廃棄物や建設残土のリサイクルを推進する。	適正に実施
省資源・ 省エネルギー・ 温室効果ガス	【資源の有効利用】	
	・再生As合材、再生骨材、木材チップ、建設汚泥改良土等再生資材の利用に努める。	適正に実施
	【環境への負荷の少ない機械の利用等】	
	・低燃費型建設機械や省エネ機構搭載型建設機械を積極的に使用する。	適正に実施
	・アイドリングストップ、エンジン回転数の抑制等機械の省エネ運転に努める。	適正に実施
	・点検整備を行い、適正な燃費消費率を維持する。	適正に実施